

(参考) 地域における二一ズ調査の経緯と調査書式

(企業・自治体関係)

- ・平成29年11月 国際地域学部地域連携協議会の構成員及び
福井県中小企業団体中央会加盟企業へのアンケート調査 …… (別添1)
- ・平成30年2月 「考福塾」第5期塾生へのアンケート調査 …… (別添2)
- ・平成30年3月～(継続中) 県内外の企業, 県内自治体との個別折衝
- ・平成30年5月 福井県中小企業団体中央会へのアンケート調査 …… (別添3)
- ・平成30年5月 留学生・県内企業合同説明会参加企業へのアンケート調査 …… (別添4)
- ・平成30年5月 「福井大学同窓経営者の会」の理事企業と個別折衝 …… (別添5)
- ・平成30年9～11月 県内外の企業, 県内自治体への派遣予定数等調査 …… (別添6)

(福井大学学部学生関係)

- ・平成30年2月 国際地域学部2年次生へのアンケート調査<第1回> …… (別添7)
- ・平成30年2月 工学部2年次生へのアンケート調査<第1回> …… (別添8)
- ・平成30年5月 国際地域学部3年次生へのアンケート調査<第2回> …… (別添9)
- ・平成30年5月 工学部3年次生へのアンケート調査<第2回> …… (別添10)
- ・平成30年12月 国際地域学部2, 3年次生へのアンケート調査<第3回> …… (別添11)

(白 紙 ペ ー ジ)

平成 29 年 11 月 8 日

関係各位

国際地域学部を中心とする大学院設置構想にかかわる
アンケート調査のお願い

国際地域学部長 寺岡英男

日頃より、国際地域学部の運営につきまして、お世話になっております。改めて、この場をお借りし、感謝申し上げます。

お陰様で学部が設置されて以降 1 年半が経過し、この間順調に進んできております。協力・連携いただいております課題探求プロジェクトも 2 年目に入り、次のレベルに移行した取組を進めているところです。また、交換留学については、協定校もこの 2 年余で 50 大学以上に拡大し、いよいよ来年度は 3 年次生となる学生の海外留学が実施されることとなります。

さて、私たちは、今の 2 年次生が卒業する段階での学生の受け皿を用意するとともに、学部のめざす人材育成を発展させ、よりいっそう地域のニーズに応えることができる教育を大学院レベルで展開するために、平成 32 年度には、新たな大学院を設置したいと考えております。

そのため、大学院設置の前提として、地域にどのようなニーズがあるのか、皆様にお伺いし、構想を具体化する上で、参考にさせていただきたいと思っております。

なにとぞご協力いただき、率直な意見を頂戴いただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

<参考>

第 3 回国際地域学部地域連携協議会 (9 月末) における大学院設置の自由討議でのご意見

短時間でしたが、外部委員の方々から次のようなご意見を頂きました。

① 国際地域のイメージをベースにした人材育成

国際地域を区別せず、国際的な視野でもって地域の諸課題をどのように解決していくのか、企業が海外展開していく中で生じる国内外の問題をどのように解決するのか、そうした問題意識を涵養する人材育成、つまり本学部が謳う国際地域のイメージをベースにした人材育成が大学院でも求められる。

② リカレント教育のニーズへの対応と学部卒者とのバランス

大学院には県内企業を対象としたリカレント教育的な役割も求められ、企業に在籍しながら学ぶというケースも想定される。そうした観点から国際と地域の双方を視野に収めた大学院としての立ち位置もあるのではないかと。学部から進学する大学院生の教育とリカレント教育をどのようなバランスで行うのか、検討する必要がある。

- ③ 海外でマネジメントできる人材の育成（現地のマネージャー育成も含め）
- ④ 海外で現地に密着し、ネットワーク等の基盤を積み上げることができる人材育成
修士課程の2年間で、タイをはじめとするアジアでの留学等を通じて現地の事情に精通し、現地のネットワークの基盤を積み上げる等の経験をしてきた学生に対しては、企業としても大変魅力を感じるはずであり、それが採用につながることも想定される。

*** 国際地域学部地域連携協議会**

国際地域学部のカリキュラムの中心的な柱の1つが、「課題探求プロジェクト」です。このプロジェクトには、多くの県内企業・自治体・関係団体のご協力をいただいておりますが、それらの代表の方々と学部のメンバーで、当該協議会を構成し、課題探求プロジェクトの企画・運営・評価についてはもちろん、学部全体の運営と評価についての「アドバイザー・ボード（助言・評価委員会）」の役割も果たしていただいております。この協議会は年2回ほど開催しています。

アンケート事項

質問 1

国内外、あるいは福井県内外の状況を考慮いたしますと、①国際的に展開する企業活動や交流活動、国内外における地域づくり、文化活動等を担い、貢献できる人材の育成、②そうした活動を展開する組織の中あるいは組織の間で、専門的・実践的な力量形成のための学習をマネジメントすることのできる専門職の育成、③国際的に活躍するために必要なツールとしての言語の教育を行う専門家の育成などが、今後、必要になると考えられます。

このような人材育成に関する考え方につきまして、

1-1 上記①～③で掲げた人材育成の必要性の是非、あるいは必要度の序列などにつきまして、ご意見をお聞かせください。また、新設の大学院ではこのような授業が必要であるのご提案があればお聞かせください。

1-2 上記以外に必要となる人材についてお考えがあればお聞かせください。

質問 2

大学院での人材育成についても、学部と同様に、国内外での課題探求プロジェクト(PBL)・インターンシップ、海外留学に軸を置き、実践的な能力の形成を目指すカリキュラム編成が必要なのではないかと考えています。このことについて、その必要性、さらにはどのようなご協力が得られるかについて、お聞かせください。

質問 3

大学院は、これまで以上に、社会人のリカレント教育の場としての役割が求められてくると考えます。そこで、現職社会人の大学院生に対し求める能力、そのためのリカレント教育の在り方について、お考えをお聞かせください。また、学部卒で入学する大学院生について、求める能力やカリキュラムのあり方について、お考えをお聞かせください。

質問 4

大学院は、既存の修士課程の場合と、教職大学院や法科大学院のような専門職大学院の場合があります。既存の大学院は、研究者の養成を基盤として高度専門家を養成するもので、学部の教員がそのまま大学院の教員となることができます。一方、専門職大学院は、高度専門職養成を目的とした大学院であり、現職社会人が勤務しながら学ぶことも可能となります。しかし、理論と実践の往還が求められるため、専任教員の3割以上は実務家教員(専門分野におけるおおむね5年以上の実務経験を有し、かつ高度の実務の能力を有する者)であることが求められ、学部教員とは別に人員が必要となります。

4-1 既存の大学院と専門職大学院について、どちらのほうが望ましいとお考えでしょうか。

4-2 専門職大学院の場合、企業、自治体、各種団体等で経験を積まれた実務家教員が専任教員となることが求められています。貴機関からそのような実務家教員を派遣していただくことは、どのような形であれば可能でしょうか。また理論と実践の往還において、貴機関を実習の場として提供していただくことは可能でしょうか。

4-3 現職の社会人が大学院生として入学することが期待されますが、貴機関ではそのような院生の派遣は可能ですか。また貴機関を実習の場として提供していただく場合に、その職場で大学院の授業の一部を受けるとすれば、いかがでしょうか。

質問5

新設の大学院では、留学生の入学も想定しています。貴機関におかれましては、留学生に対する教育では、何が重要であるとお考えでしょうか。また新設の大学院の修了後の留学生の貴機関への受入についてのお考えをお聞かせください。

その他 ご意見があればご自由にお書きください

勤務先
ご氏名

役職名

<回答欄>

質問 1

1 - 1

必要性・必要度の序列について

必要と思われる授業

1 - 2

質問 2

(必要性について)

(どのようなご協力をお願いできるか)

質問3

(現職社会人大学院生)

(学部卒大学院生)

質問4

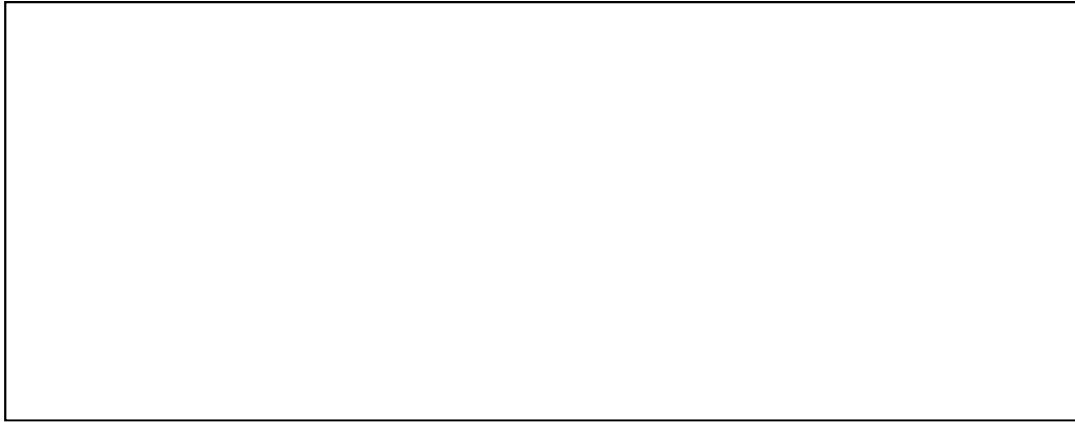
4 - 1

4 - 2

4 - 3

質問5

その他ご意見



(白 紙 ペ ー ジ)

20180209

考福塾第5期塾生の皆さんへ

大学院についてのアンケート

国際地域学部長 寺岡英男

福井大学では、国際地域学部という名称の新しい学部を2016年度に新設しました。この学部は、学部名称の通り、「地域の創生を担い、グローバル化した社会の発展に貢献できる人材育成」を目的としています。そのために交換留学制度による留学を勧め、また地域の課題を解決するための「課題探求プロジェクト」を1年次から4年次まで、企業や自治体等との協力・連携の下で実施するなど、従来にないカリキュラム編成の下での教育を行っています。この学部は地域の高校や企業等からの期待も大きく、また在學生も国際的に通用する教務システムの下、米国並みの学習時間で勉学に励むなど、意欲的に学んでいます。

そうした在學生が最初に卒業する2020年の春からは、福井大学では、この学部の上に大学院をつくる構想を検討しています。その大学院はまだ詰められたものではありませんが、国際や地域のマネジメントの実践的な力量を身に付けることを目的とし、しかも社会人が仕事をしながら学ぶことのできる専門職大学院を想定しています。例えば、勤務しながら修了できたり、入学前に集中講義等の履修で事前に単位の一部を修得し、1年短縮とするなどの仕組みを考えています。

大学として今後構想づくりの検討を進める上で、塾生の皆さんに皆さん自身が大学院についてどう考えているか、意見を聞かせてもらい、参考にして行きたいと思います。

そこで以下の質問に答えてください。

勤めておられる職業：該当するものに○を

- ア. 建設業 イ. 製造業 ウ. 電気・光熱水業 エ. 情報通信業 オ. 運輸業
 カ. 卸売・小売業 キ. 金融・保険業 ク. 不動産業 ケ. 宿泊・飲食サービス業
 コ. 生活関連サービス業 サ. 教育・学習支援業 シ. 医療・福祉業 ス. 複合サービス業
 セ. 公務員 ソ. 農林業 タ. 漁業 チ. その他

就いておられる職種：該当するものに○を

- ア. 事務職 イ. 販売職 ウ. 専門・技術職 エ. 生産工程職 オ. サービス職
 カ. 管理職 キ. その他

ご年齢：該当するものに○を

- ア. 20歳代 イ. 30歳代前半 ウ. 30歳代後半 エ. 40歳代 オ. それ以上

＜質問＞

1. 国際地域学部の上にマネジメントの実践的な力量を身に付けることを目的とする専門職大学院をつくることについてどう思いますか
 ア. あったほうがいいので賛成する イ. もっと研究を深める大学院が必要 ウ. も

っと広く教養・知識を身に付ける大学院が必要 エ. わからない

2. このような大学院に進学したいという気持ちはありますか？

ア. 大いにある イ. 考えてみたい ウ. 他の大学院に行く エ. 進学は考えていない

3. その大学院にはどのような分野があるといいと思いますか？（複数に○も可）

ア. 英語や日本語等の言語の能力を高める

イ. 様々な国際機関や国際進出企業等で活躍できる能力を高める

ウ. 企業や組織での経営的・マネジメント的能力を高める

エ. 地域づくりについての専門的な力量を高める

オ. 他にあったらいいと思う分野があれば書いてください

()

4. 教育課程の中に次のような内容を置くことは必要と思いますか？

(◎ ぜひ必要 ○ あった方がいい × 必要ない)

ア. 海外でのインターンシップ () イ. 国内でのインターンシップ ()

ウ. 国内外での研修・実習 () エ. 異業種企業等での研修 ()

オ. 他大学の大学院の科目の履修 ()

カ. 学部・大学院一貫による1年短縮修了 ()

キ. その他 ()

平成30年5月18日

中小企業団体中央会会員企業 各位

国立大学法人福井大学

国際地域学部長 木村 亮

社会人向け大学院の設置に関する追加アンケートのお願い

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

皆様には、平素から種々福井大学にご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

早速で恐縮ですが、本年3月初旬に、中小企業団体中央会のご支援を得て、皆様に社会人向け大学院設置に関するアンケート調査をお願いしたところ、ご多忙の折にも関わらず、ご回答を賜り、ありがとうございました。

その後、学内でも具体の検討を進め、以下のような構想をまとめつつありますが、先のアンケート調査で「大学院への進学を考えてみたい。」とご回答いただきました企業の皆様に、改めて、別紙のアンケートをお願いしたいので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

謹言

<専門職大学院の具体的な構想>

県内のグローバル化が進展する中、この専門職大学院では、各企業等でご活躍されている若手・中堅社員の方々を対象に、企業のグローバル展開に必要な知識と実践的なマネジメント能力を身に付け、将来、リーダーとなる人材を育成しようとするものです。

(別添の「育成する人材像と教育課程の枠組みイメージ」をご覧ください。)

【本件担当】

福井大学国際地域学部支援室

支援室長 中川和治

〒910-8507

福井市文京3丁目9番1号

電話 0776-27-9936

FAX 0776-27-9977

Mail s-gcssien@ad.u-fukui.ac.jp

社会人向け大学院（専門職大学院）の設置に関するアンケート回答

企業名 _____

ご芳名 _____

「専門職大学院」では、社会（出口）と連携して、実践的な教育を行い、高度専門職業人を養成（社会人のキャリアアップを含む。）します。本学では、この専門職大学院の平成32年4月開設を目標に検討を進めておりますので、是非ご協力ください。

質問1. この大学院では、語学・分析ツール・専門分野の知識に加え、「国外実地研修」（最低1ヶ月程度、別添のイメージ図参照）を大きな柱と考えていますが、次のどの実地研修に最も期待されますか。（複数に○も可）

1. JICAでの短期ボランティア or インターンシップによる実地体験
2. 異業種の海外進出特定企業での実務体験
3. 一国又は複数国に滞在し、現地の進出企業等でのヒアリング・同行研修
4. 欧米の大学等での短期研修
5. 総合商社での短期実務研修
6. ユネスコでのプロジェクト参加型研修
7. その他（ _____ ）

質問2. ご自身がこの大学院に入学、あるいは会社の後継者、幹部候補社員の方をこの大学院に入学させたいとお気持ちがございますか。（何れかに○をお願いします。）

1. 大いにある
 2. 考えてみたい
 3. 特にない
- （詳細なご説明のご希望 あり ・ なし ）

質問3. この大学院での学びに関し、ご希望やご要望があれば、自由にご記入ください。可能なものは、構想に反映させていただきます。

ご質問は以上です、ご協力ありがとうございました。

この回答は、当方の都合で恐縮ですが、5月24日（木）までに、国際地域学部支援室まで、メール(s-gcssien@ad.u-fukui.ac.jp)又はFAX(0776-27-9977)にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。

(本件は、本年4月15日に福井銀行・福井県・福井商工会議所・福井県国際交流協会主催で開催されました、外国人留学生・県内企業合同説明会ご参加の企業のご担当者にお送りしております。別途、本件に係るご担当部署がございましたら、お手数ですが、回付くださいますようお願い申し上げます。)

平成30年5月16日

留学生・県内企業合同説明会参加企業の
代表者 様

国立大学法人福井大学
国際地域学部長 木村 亮

社会人向け大学院の設置に関するアンケートのお願い

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

皆様には、平素から福井大学に種々ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

早速で恐縮ですが、福井大学国際地域学部におきましては、現在、社会人のキャリアアップを含む高度専門職業人を養成する専門職大学院の平成32年度開設を目標に検討を行って進めております。

県内のグローバル化が進展する中、この専門職大学院では、各企業等でご活躍されている若手・中堅社員の方々を対象に、企業のグローバル展開に必要な知識と実践的なマネジメント能力を身に付け、将来、リーダーとなる人材を育成しようとするものです。
(別添の「育成する人材像と教育課程の枠組みイメージ」をご覧ください。)

つきましては、この専門職大学院設置に向け、是非ともご支援を賜りたく、お手数ですが、別紙のアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

謹言

【本件担当】
福井大学国際地域学部支援室
支援室長 中川和治
〒910-8507
福井市文京3丁目9番1号
電話 0776-27-9936
FAX 0776-27-9977
Mail s-gcssien@ad.u-fukui.ac.jp

社会人向け大学院（専門職大学院）の設置に関するアンケート回答

企業名 _____

ご芳名 _____

「専門職大学院」では、社会（出口）と連携して、実践的な教育を行い、高度専門職業人を養成（社会人のキャリアアップを含む。）します。本アンケート結果は、この専門職大学院構想の参考といたく、経営者若しくは人事担当責任者の方にご回答いただければ幸いです。

質問1. この大学院では、語学・分析ツール・専門分野の知識に加え、「国外実地研修」（最低1ヶ月程度、別添のイメージ図参照）を大きな柱と考えていますが、次のどの実地研修に最も期待されますか。（複数に○も可）

1. JICAでの短期ボランティア or インターンシップによる実地体験
2. 異業種の海外進出特定企業での実務体験
3. 一国又は複数国に滞在し、現地の進出企業等でのヒアリング・同行研修
4. 欧米の大学等での短期研修
5. 総合商社での短期実務研修
6. ユネスコでのプロジェクト参加型研修
7. その他（ _____ ）

質問2. 若手・中堅社員の方、あるいは会社の後継者や幹部候補社員の方等をこの大学院に入学させたいとお気持ちがございますか。（何れかに○をお願いします。）

1. 大いにある
2. 考えてみたい
3. 特にない

質問3. この大学院では、外国人留学生の入学も想定しています。ここを修了した外国人留学生の採用に興味がありますか。

1. 大いにある
2. 考えてみたい
3. 特にない

質問4. この専門職大学院構想にご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。

ご質問は以上です、ご協力ありがとうございました。

この回答は、当方の都合で恐縮ですが、本件担当に5月24日（木）までに、メール又はFAXにてお知らせくださいますようお願い申し上げます。

平成30年5月16日

福井大学同窓経営者の会
福井県内の企業経営者会員の皆様へ

国立大学法人福井大学
国際地域学部長 木村 亮

社会人向け大学院の設置に関するアンケートのお願い

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

皆様には、平素から種々福井大学にご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

早速で恐縮ですが、福井大学国際地域学部におきましては、現在、社会人のキャリアアップを含む高度専門職業人を養成する専門職大学院の平成32年度開設を目標に検討を行っております。

県内のグローバル化が進展する中、この専門職大学院では、各企業等でご活躍されている若手・中堅社員の方々を対象に、企業のグローバル展開に必要な知識と実践的なマネジメント能力を身に付け、将来、リーダーとなる人材を育成しようとするものです。
(別添の「育成する人材像と教育課程の枠組みイメージ」をご覧ください。)

つきましては、この専門職大学院設置に向け、是非ともご支援を賜りたく、お手数ですが、別紙のアンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本件につきましては、5月12日開催の福井大学同窓経営者の会の理事会において、学長及び当職から、ご支援をお願い申し上げますことを申し添えます。

謹言

【本件担当】
「福井大学同窓経営者の会」事務局
窪田, 中辻
〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1
TEL: 0776-27-8056
FAX: 0776-27-8518
E-mail: dkeiei@ad.u-fukui.ac.jp

社会人向け大学院（専門職大学院）の設置に関するアンケート回答

企業名 _____

ご芳名 _____

「専門職大学院」では、社会（出口）と連携して、実践的な教育を行い、高度専門職業人を養成（社会人のキャリアアップを含む。）します。本学では、この専門職大学院の平成32年4月開設を目標に検討を進めており、経営者のお立場で、是非ご回答ください。

質問1. この大学院では、語学・分析ツール・専門分野の知識に加え、「国外実地研修」（最低1ヶ月程度、別添のイメージ図参照）を大きな柱と考えていますが、次のどの実地研修に最も期待されますか。（複数に○も可）

1. JICAでの短期ボランティア or インターンシップによる実地体験
2. 異業種の海外進出特定企業での実務体験
3. 一国又は複数国に滞在し、現地の進出企業等でのヒアリング・同行研修
4. 欧米の大学等での短期研修
5. 総合商社での短期実務研修
6. ユネスコでのプロジェクト参加型研修
7. その他（ _____ ）

質問2. ご自身がこの大学院に入学、あるいは会社の後継者、幹部候補社員の方をこの大学院に入学させたいとお気持ちがございますか。（何れかに○をお願いします。）

1. 大いにある 2. 考えてみたい 3. 特にない
（詳細なご説明のご希望 あり ・ なし ）

質問3. この大学院での学びに関し、ご希望やご要望があれば、自由にご記入ください。
可能なものは、構想に反映させていただきます。

ご質問は以上です、ご協力ありがとうございました。

この回答は、当方の都合で恐縮ですが、5月22日（火）までに、福井大学同窓経営者の会事務局まで、メール又はFAXにてお知らせくださいますようお願い申し上げます。

福井大学専門職大学院国際地域研究科（仮称）の 2020年度設置に向けての協力のお願い

福井大学国際地域学部

本専門職大学院の設置検討につきましては、ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

お陰様で、文部科学省とは設置準備を進める方向で更に協議を進めることとなり、今後、設置に不可欠な各企業や自治体からのニーズを更に具体化し、併せて、海外実地研修の詳細を早急に取りまとめることが必要となりました。

つきましては、以下の2項目について、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

企業・自治体、ご担当者等

1. 社員（職員）の方の本大学院への派遣（入学）について

現時点でのお考えで結構ですので、社員の方の本大学院への派遣見込み数について、以下にご記入ください。なお、このご回答は、入学の確約をお願いするものではありません。

派遣年度	2020.4	2021.4	2022.4	2023.4	2024.4	
派遣人数	人	人	人	人	人	

注) その年度に入学させたい人数をご記入ください。毎年、隔年、○年のみ等
(補足等が必要でしたら、ご記入ください。)

2. 海外実地研修の研修内容について

海外実地研修のうち、「海外実地研修A」については、現地での研修で取り組む課題を、予め次の中から選択いただく予定ですが、特に、希望される課題にチェック(✓)をお願いします。

また、これ以外に、ご希望の課題があれば、「その他」にご記入ください。

- 収益力アップ
- 現地マネジメント人材の管理・育成
- フィージビリティスタディと仮想新規立地
- その他

本件回答先: 国際地域学部支援室 FAX: 0776-27-9977 , Mail: s-gcssien@ad.u-fukui.ac.jp
TEL: 0776-27-9936

(白 紙 ペ ー ジ)

20180206

国際地域学部学生の皆さんへ

大学院についてのアンケート

国際地域学部長 寺岡英男

福井大学では、国際地域学部の今の2年生が卒業する2019年度の翌年度の2020年度から、学部の上に大学院をつくる構想を検討しています。その大学院は、今の学部の上に単純に大学院を乗せるというのではなく、教育学研究科、あるいは工学研究科の一部との連携を考えることになるかもしれません。

いずれにしても、大学として今後構想づくりの検討を進める上で、皆さん自身が大学院についてどう考えているか、意見を聞かせてもらい、参考にして行きたいと思います。

そこで以下の質問に答えてください。

<質問>

1. 国際地域学部の上に大学院をつくることについてどう思いますか

ア. あったほうがいい イ. あまり必要性は感じない ウ. わからない

2. 大学院がつくられるとすると、そこに進学する気持ちはありますか？

ア. 大いにある イ. 考えてみたい ウ. 他の大学院に行く エ. 進学は考えていない

3. どのような目的の大学院だったらいいですか？

ア. もっと研究を深める イ. もっと実践的な力をつける ウ. もっと広く教養・知識を身に付ける

4. 分野としてはどういうものがあるといいですか？(複数に○も可)

ア. 英語や日本語等の言語の能力を高める

イ. 様々な国際機関や国際進出企業等で活躍できる能力を高める

ウ. 企業や組織での経営的・マネジメント的能力を高める

エ. 地域づくりについての専門的な力量を高める

オ. 他にあったらいいと思う分野があれば書いてください

()

5. 教育課程の中に次のような内容を置くことは必要と思いますか？

(◎ ぜひ必要 ○ あった方がいい × 必要ない)

ア. 海外でのインターンシップ () イ. 国内でのインターンシップ ()

ウ. 国内外での研修・実習 () エ. 他大学の大学院の履修 ()

オ. 学部・大学院一貫による1年短縮修了 () カ. 社会人入学者と一緒に修学 ()

(白 紙 ペ ー ジ)

(白 紙 ペ ー ジ)

専門職大学院に関するアンケート調査

現在、福井大学国際地域学部では、地域の企業や自治体等がグローバル化に対応した事業戦略を構築する際に必要となる人材を養成することを目標とする専門職大学院（現役の社会人とともに、事業活動に関する実務や実務に必要な学問分野を実践的に学ぶ修士課程）を、平成32（2020）年度4月の設立予定で構想中です。

具体的には、在学する2年間の間に、

- ①経営戦略やグローバル・マーケティング、ファイナンス、会計、人材戦略といったグローバルな事業活動に必要な分野や、国際関係や持続的開発、地域の活性化に関する分野の理論および実践的な課題に即した学習
- ②グローバルな業務の中で必要となる語学力の育成
- ③海外での実践的な研修

を行い、グローバルな事業構想力を身に着けるためのカリキュラムを検討しています。最終的には、2年間の学習、研修を踏まえた事業構築のプランニング等の報告書を提出し、修士（専門職）の学位を取得します。

そこで、このような専門職大学院の設置に向けて、あなたのお考えを伺います。当てはまる数字に○をつけてください。

1. あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか
 - ①就職 ②大学院・専門学校等への進学 ③現在考慮中 ④まだ考えていない

2. 1の質問で②～④と答えた方に尋ねます。上記のような専門職大学院への進学を希望しますか
 - ①希望する ②選択肢の一つとして考えたい ③期待できる内容ならば進学したい
 - ④希望しない ⑤わからない

3. 2の質問で①～③と答えた方に尋ねます。もし、この専門職大学院で学ぶとすれば、どのような内容のカリキュラムが望ましいと思いますか。以下の選択肢から選んで回答してください（3つ以内）。
 - ①海外の社会・経済の多様な事情が理解できる
 - ②企業経営を進めていくうえで必要な知識を得ることができる
 - ③海外で事業活動を展開する際のさまざまな課題を理解できる
 - ④海外で多くの人と付き合う力が身につく
 - ⑤海外をマーケットとして起業する際のノウハウが身につく
 - ⑥途上国の開発に携わるために必要な力が身につく
 - ⑦将来国際的な事業で活躍するための契機となる
 - ⑧英語などの外国語の能力が高まる

(裏面に続く)

4. この専門職大学院では、海外での研修(最低1か月程度)を2年次に経験することになります。どのような研修内容を希望しますか。(複数回答可)

- ①特定国に進出している企業における長期業務研修
- ②特定国に滞在し、現地の進出企業や銀行等でのヒアリング、同行研修
- ③複数国で②のような内容で実施する研修
- ④特定国に滞在し、特定のテーマをもとに調査を行う研修
- ⑤海外大学においてレクチャー、プレゼンテーション、討論を行う研修
- ⑥国際機関、政府関係機関等でのインターンシップ
- ⑦総合商社の海外事業所における事業活動研修
- ⑧その他 ()

以上です。ありがとうございました。

専門職大学院に関するアンケート調査

現在、福井大学国際地域学部では、地域の企業や自治体等がグローバル化に対応した事業戦略を構築する際に必要となる人材を養成することを目標とする専門職大学院（現役の社会人とともに、事業活動に関する実務や実務に必要な学問分野を実践的に学ぶ修士課程）を、平成32（2020）年度4月の設立予定で構想中です。

具体的には、在学する2年間の間に、

- ①経営戦略やグローバル・マーケティング、ファイナンス、会計、人材戦略といったグローバルな事業活動に必要な分野や、国際関係や持続的開発、地域の活性化に関する分野の理論および実践的な課題に即した学習
- ②グローバルな業務の中で必要となる語学力の育成
- ③海外での実践的な研修

を行い、グローバルな事業構想力を身に着けるためのカリキュラムを検討しています。

最終的には、2年間の学習、研修を踏まえた事業構築のプランニング等の報告書を提出し、修士（専門職）の学位を取得します。

そこで、このような専門職大学院の設置に向けて、あなたのお考えを伺います。当てはまる数字に○をつけてください。

1. あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか
 - ①就職または福井大学工学研究科への進学 ②福井大学工学研究科以外の工学系大学院・専門学校等への進学 ③工学系以外の大学院・専門学校等への進学 ④現在考慮中 ⑤まだ考えていない

2. 1の質問で③～⑤と答えた方に尋ねます。工学系以外の上記のような専門職大学院への進学を希望しますか
 - ①希望する ②選択肢の一つとして考えたい ③希望しない ④わからない

3. 2の質問で①～②と答えた方に尋ねます。もし、この専門職大学院で学ぶとすれば、どのような内容のカリキュラムが望ましいと思いますか。以下の選択肢から選んで回答してください（3つ以内）。
 - ①海外の社会・経済の多様な事情が理解できる
 - ②企業経営を進めていくうえで必要な知識を得ることができる
 - ③海外で事業活動を展開する際のさまざまな課題を理解できる
 - ④海外で多くの人と付き合い力が身につく
 - ⑤海外をマーケットとして起業する際のノウハウが身につく
 - ⑥途上国の開発に携わるために必要な力が身につく
 - ⑦将来国際的な事業で活躍するための契機となる
 - ⑧英語などの外国語の能力が高まる

（裏面に続く）

2. もし、この専門職大学院で学ぶとすれば、どのような力量や知識を身につけることを望みますか。以下の選択肢から選んで回答してください（3つ以内）。

- ①様々な国・地域における社会・経済の事情を理解する
 - ②事業を運営していくうえで必要なマネジメントに関わる知識を得る
 - ③事業の企画に必要な発想力・デザイン能力を身につける
 - ④海外で事業活動を展開する際に必要な知識、および交渉力・行動力を身につける
 - ⑤国内および国外におけるマーケットの開拓に必要な知識を身につける
 - ⑥移民問題やインバウンド対策、少子高齢化などこれから地域にとって政策的に必要なとなる課題に関する知識を得る
 - ⑦日常的に外国人や外国企業などとの取引や交渉をスムーズに行う力を身につける
 - ⑧高度な英語能力、ビジネスを含む実用的な英語能力を身につける
 - ⑨その他
- ()

3. この大学院の授業は、社会人が働きながら通えるように、基本的に平日の夜間、土曜、休業期間中に行われますが、あなたはどのようなライフスタイルを想定しますか。

- ①日中は、学部の未履修科目を履修したり、他の学校等に通ったりするなど、自学に努める
 - ②日中は、アルバイトなど時間的に融通の利く職に就く
 - ③大学院と就職を両立できるような就職先を探す
 - ④その他
- ()

以上です。ありがとうございました。

【参考】 専門職大学院で開講予定の授業科目（変更あり）

海外事情研究Ⅰ・Ⅱ、国際関係論、国際交渉研究、経営戦略論、マーケティング論、データ分析手法、事業デザイン論、ビジネス交渉とリーダーシップ、企業財務・会計・データ分析、国際ビジネスと法・リスク管理、観光マネジメント論、まちづくりマネジメント論、地域経済研究、移民問題、英語（Communication、Reading/Writing、Intercultural Communication、Professional Speechcraft、Professional Text Analysis、Advanced Writing）、中国語（基礎・コミュニケーション・実用）
新事業創造ワークショップ、海外実地研修A・B・C、最終報告